

10月定例教育委員会会議録

1 日 時	令和6年10月3日（木）午後5時30分から午後6時30分まで
2 会 場	磐田市役所西庁舎3階特別会議室
3 出席者	山本敏治教育長、鈴木好美委員、秋元富敏委員、大橋弘和委員、阿部麻衣子委員
4 出席職員	鈴木壮一郎教育部長、鈴木雅樹教育総務課長、大學裕学校づくり整備課長、石田和代学校給食課長、森下昌司学校教育課長、天野敏之放課後活動課長、伊東直久中央図書館長、神谷英雄文化財課長、清水大輔幼稚園保育園課長 (傍聴人0人)

(進行委員：阿部麻衣子委員)

1 開会

2 教育長あいさつ・教育長報告

改めましてこんばんは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

暑い夏も終わり、やっと秋らしい季節になりました。気象庁からは、今年の6月から8月までの全国の平均気温は統計を開始した1898年以降の夏として、昨年の記録と並び最も暑かったという報道がありました。昨年に引き続いてのこの暑さですので、夏の教育活動において、子どもたちの安心安全を担保するために、暑さ対策をどのようにしていくのかは、教育委員会としても大きな課題であると認識しているところです。

令和6年度も折り返し地点を過ぎました。「着眼大局、着手小局」という言葉があります。着眼大局、広い視野で物事を全体的大きくとらえ、その要点や本質を見抜き、着手小局、実際にとりかかるときには細かな所にも目を配り、具体的に実践していくという意味ですが、今年度の前期を振り返り、後期に向けての見直し改善、さらには予算編成が始まりましたので来年度に向けての事業のさらなる充実を図るために、ぜひこの言葉を意識して取り組んでいきたいと思えます。先ほどの暑さ対策についても、来年度に向け、大きな方向性を見据えて、できるところから丁寧に取り組んでいきたいと考えています。

本定例教育委員会の進め方についても、今までの取組を踏まえ、少し改善を図っていききたいと思えます。それは、今までこの定例教育委員会では、議会提出案件や委員の委嘱、各種条例改正等についての議事を教育委員の皆様にご審議いただき、その後報告事項についてご質問、ご意見をいただきました。協議事項については、本日の「学校教育及び社会教育に関する一般方針」のように、いわゆる教育行政の大きな方向性（大局）についてはご協議いただきましたが、各種事業、例えば部活動の地域移行や不登校児童生徒への対応、探究的な学びへの取組等については、協議事項の中では取り上げておらず、報告事項の中で報告をし、それに対してご意見やご質問をいただく形で進めてきました。今後は、教育委員会として課題となっていることや新たな取組み等時間をとってご協議いただきたい内容については、協議事項の中で、テーマを定め、教育委員の皆様からご意見をいただくことで、各種事業の「着眼大局」につなげていけたらと考えています。

それでは、本日はどうぞよろしく願いいたします。

3 前回議事録の承認

8月27日定例会に関して

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

4 教育部長報告

○教育長から着眼大局の話がありましたが、少し掘り下げて話をさせていただきます。

9月議会において、一般質問以外に質疑や委員会があった中で、教育委員会では不登校対策の記録がどこにも出てこないが、どのような議論がされているのかという御質問がありました。総合教育会議の中で令和3年、令和4年に議論されたことや、不登校の先進地の視察等を行ったという回答をさせていただきました。その後、別日の委員会にて、教育委員会において教育委員が何を考えているのか、どのような発言があったのか市民の方が知りたいのではないかとというような御提案がありました。これを受けて、市民に対して、教育委員が何を考えどのような議論がされているのかというものを、見える化していく方向でやっていくべきではないかということになりました。ついては、この会議の中の時間でできるだけ議題が少ないとき、もしくは議題の審査方法の改善も含めて時間を取らせていただいて、社会問題になっていることや今話題になっていることなど事前にテーマを決めてお知らせする中で、議論を活発にしたいなど。そしてそれを公表していくべきではないかと考えております。突然の提案ですから、こうしたらどうか、こういうやり方はどうかということが、委員の皆様、また職員の皆様の中にもありましたら、ぜひともこちらに提案いただければと思います。

5 報告事項

(1) 自治デザイン課

<質疑・意見>

なし

(2) スポーツのまち推進課

<質疑・意見>

なし

(3) 文化振興課

<質疑・意見>

なし

(4) 福祉政策課

<質疑・意見>

なし

(5) 幼稚園保育園課

○11月末までの実施事業の予定について、11月18日午後3時から、磐周教育研究所大会議室で本年度2回目の保幼小合同研修会を行います。内容は、小学校との効果的な連携・接続に向けて、福田こども園の職員が発表する予定です。ご都合がよろしければ、ご参観いただけたらと思います。

<質疑・意見>

■4園で行った保護者との意見交換会について、どのような状況でしたか。

□園児数の減少や園舎の老朽化への対応として、同じ学府にある園との統合、園舎の建替え等を検討していくため、6月下旬から7月上旬にかけて1回目の意見交換会を行い、その際に実施したアンケートの結果を踏まえて、2回目の意見交換会を9月下旬に行いました。幼稚園保育園課の案として、向笠幼稚園と大藤こども園については、統合時期は令和9年度を軸として、統合時に園名を変える、新園舎ができるまで大藤こども園の園舎を利用することなどをお話ししました。新園舎の建設場所については、保護者の希望は整備中の向陽学府小中一体校周辺か大藤小学校地内で分かれています。建設時期については財政的なこともありますので未定ですが、今後ご意見をお聴きしながら検討していきます。長野幼稚園と磐田南幼稚園については、磐田南幼稚園は地区に保育園等がないことや、長野幼稚園に比べて園児数が多いことから今後、こども園にしていくことを検討していきたいと考えています。新園舎については、こちらも時期は未定ですが、検討していきたいと思います。統合については、現時点で時期を決めることはしない予定ですが、今後は磐田南幼稚園と長野幼稚園の園児同士の交流を図っていきながら、保護者のご意見もお聴きしながら、検討していきたいと考えています。

■園舎を建設する場合は、0歳児から預かる幼保連携型認定こども園にするのか、3歳児からの幼稚園型認定こども園にするのか、どちらですか。

□意見交換の中で、3歳児からの幼稚園型認定こども園を検討していくこととお話ししたところ、幼保連携型認定こども園を希望する保護者の方が何人かいました。保護者のニーズとして受け止めたのですが、近隣にある私立園とのことなどもお話ししながら、今後も丁寧に意見交換していきたいと思います。

（6）教育総務課

○「これからの公共施設と学校施設の意見交換会」を10月15日に福田地区で開催します。教育施設、文化施設など、市民生活を支える公共施設をこれからどうしていくかというお話です。市長、教育長からお話をいただいた後、出席者との意見交換と合わせて1時間ほどで、全5回実施予定です。申込み状況は、磐田地区35人、豊田地区20人、福田地区30人、竜洋地区22人、豊岡地区40人です。コドモンなどを使って保護者にはお知らせしました。

<質疑・意見>

■PTA存続について、巷ではいろいろなニュースが出ていますが、そのような話がありますか。

□そのような話が出ていないので存続していけると思っていますが、そういった危惧も当然していきまして、御意見や御要望が出たときの対応も考えなくてはいけないと思っています。

□PTAの研修で分科会を全部回らせていただきましたが、やはり単Pの存続は、会長を始めとした選出方法について関心が高く、それぞれ意見交換していて、今までのやり方を少し変えなくてはいけないというところは、皆さん共通理解や課題意識を持って取り組んでいると聞きます。いろいろな思いがあると思います。

■入学式や卒業式の際に、職員の方に決め方を聞いています。穏便だったり一本釣りだったり、各学校の地域性があって、いろいろな手法があると思いますが、問題は上がってこないですか。

□そういった苦情などはありませんので、良識の範囲内でやっていただいていると思っています。

（7）学校づくり整備課

○向陽学府の開校に向けた会議を二つ、予定どおり開催をしています。

工事の関係では、今年度重点で進めているトイレの洋式化工事について、夏休み期間中を利用して進捗を図っています。1件入札不調になっていた案件も本日無事に落札をしまして、今年度予定どおり10校でトイレ改修できる目途が立ちました。

大藤小の受電設備が過負荷で壊れています。コロナ禍で窓を開けたまま稼働したことが原因と考えられます。復旧に4ヶ月かかる見込みです。

<質疑・意見>

なし

（8）学校給食課

<質疑・意見>

なし

（9）学校教育課

・令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果報告について

○本年度の全国学調の磐田市の結果に関する資料について簡単に説明します。

まず小学生の国語ですが、成果としては他者の意見を踏まえて自分の考えをまとめる力が向上しており、ICTを活用した授業も含め、メモをとりながら考えを整理する取り組みの効果が考えられます。一方、まとめた文章を読み取り、その要点や自分の考えをまとめる力が不足していると分析できます。これは様々な種類の文章を読む機会の減少が要因の1つと考えられます。

続いて、小学生の算数ですが、課題としては問題を読み取る力や適切な解決策を選ぶ力のベースである論理的思考力の不足が指摘できます。算数での学びを実生活においてどう応用するか、そのよう

な思考の展開が必要であると考えます。

次に中学校の国語です。国語の授業だけの成果ではありませんが、対話を通じた活動、協働的な活動の積み上げが成果として出てきていると考えます。ただし、資料や文章を作成する上での構成力の不足、長文理解や要約能力の改善は必要であると考えます。多様なジャンルの文章に触れる機会が不足していることが影響していると推察します。

続いて、中学校の数学です。複雑な問題に対するアプローチや解法の選択において、自信を持っていない傾向があります。特に実生活に関連した問題に対する理解が不足している傾向があると言えます。論理的に表現する活動が日頃の授業から積極的に取り入れられ、説明することが習慣化できているので、授業の中だけで終わらない仕組みづくりが必要です。

最後に質問紙に対する回答結果についてです。昨年度同様「自分には良いところがある」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と答えた児童生徒の割合が全国値よりも高く、子どもの自己有用感を高める取組が継続的に行われていると考えます。また、学校における様々な活動において、児童生徒が自ら問い直し、解決していくような活動を取り入れる学校が増えてきていること、ICT機器を活用することで、より多くの考え方や意見に触れながら対話活動する良さを感じ、合意形成しながら物事を主体的に解決する仕組みづくりに取り組んでいることが推察されます。

以上、簡単ではありますが、本年度行われた全国学力学習状況調査、磐田市の結果についての考察を説明させていただきました。

また、阿部委員から事前に御質問をいただいている件について回答します。御質問は、「学校での水泳の授業公開について、配慮が必要ではないか？との意見があります。子どもが（水着姿を見られたくない）嫌だと思い、その親も嫌だと思ふ場合はどうしたらいいかと。水泳授業の公開は各学校の判断に委ねられていますか？今までそのような意見やケースがあったかどうか？教育委員会としての考えはあるのかを知りたいです。」ということです。

まず、一般に我々が考える公開授業は、開かれた学校の中で多くの皆さんに見ていただくという意味での公開授業と捉えますが、実際には参観会の延長のような形で保護者、もしくはその御家族等々が多来ることが多いというのが我々の理解する公開授業です。そういった中で水泳の授業が行われたということだと思いますが、実際にお子さんが嫌だと思ふ場合にどうしたらいいかということでは、まず学校に相談していただくことと捉えます。内容や実施については学校の裁量に任されているところですので、学校と対話していくことが必要だろうと考えます。学校教育課にはそういった類いの質問はありませんが、学校に質問があったかというのは確認していません。最後に、結果としての考えはどうかということですが、今の時代ですのでそれぞれの考えや思いに寄り添ってよい在り方を模索していく必要があると考えているため、このような意見があったということをきちんと周知、共有して、よりよい形をつくっていく必要はあると考えています。

<質疑・意見>

○一般公開ではなく父兄への公開で、ある程度限定はされていたようですが、普通の授業であればいいけれどもお父さんとかいろいろな家の方に来るのは嫌ということでした。学校には言ったようですがおそらく実名でもないでしょうし、子どもも言わないでと言ったらしく、保護者が少し電話した程度だったようです。確かに嫌な子は嫌だと思ふので、返答に少し困ったということもあって質問させていただきました。

■ふるさと先生について、今年は何人くらい採用する予定で、もう募集を締め切りましたか。

□新規と継続する方を合わせて12名の採用予定です。募集を締め切っています。

(10) 放課後活動課

- ・磐田市立中学校部活動指導員の配置（追加）について
- ・磐田市立中学校部活動外部指導者の委嘱（追加）について

○磐田市立中学校部活動指導者と磐田市立中学校部活動外部指導者を1名ずつ追加させていただきましたので、よろしくお願ひします。

それから先日、保護者向けに、来年度入学の場合の部活動がどのようになるかということについて、説明の動画を配信したところです。毎回工夫はしているつもりですが、やはり情報をお伝えする中に

において、保護者の方にとっては多かったり少なかったり、資料を見せてもなかなか分かりにくいということもあります。担当グループがパワーポイントを駆使して、アナウンスを入れた動画でお伝えできるよう工夫はしましたが、より丁寧に分かりやすくというつもりが、かえってボリュームが多くなってしまったりとか、いろいろなお声があるので、それにお答えしようとする形で入れ込みますと、今度は資料の量が多いのではないかという話にもなります。周知方法についてはいつも課題として捉えて工夫していますが、改めて難しいと捉えています。これから各中学校では新入生向けの説明会があり、我々も毎年出向いて、直接生の言葉でお伝えしていて、状況によっては、昨年もそうでしたが、個別に御相談に乗っています。そのような丁寧な対応をするよう、引き続き努めていきたいと思っています。

< 質疑・意見 >

■ 実施事業の予定に「行政視察」と「視察」がありますが、何か違いがありますか。また、これはこちらから行くのか、来られるのかどちらですか。

□ 議会事務局を通じて先方から視察依頼があったときには「行政視察」、担当課からダイレクトに放課後活動課に職員の視察依頼がある場合は「視察」としており、全て磐田市に来る視察です。行政視察の場合は議員が来られるため、当委員会室で説明します。

全て SPO☆CUL IWATA の部活動の地域移行に関わる視察ですが、議会の谷間に集中してたくさんの視察を毎年受けています。鳥取県米子市の視察についても同じく、部活動をどうしたらいいかということでお見えになるものです。

■ 令和 8 年度の夏の中体連以降、部活も含め全てを SPO☆CUL IWATA に移行するという一方で、これから短期間で全て受皿をお願いしなくてはいけないと思いますが、本当に大丈夫なのかと少し心配があります。もしできなかった場合はどうされるのかとか、そうではなくて絶対に受けるように働きかけるのか、おそらくそこも保護者が心配しているところですが、その辺りはいかがですか。

□ 非常に答えが難しいところが正直ありますが、今年度、特に学校部活動の再編にどう取り組むかがやはり 1 番だと思っていて、その加速をさせていく必要から、各種目別に顧問参加の 2 回目の検討会を行っている最中です。検討会を踏まえて、種目ごとに出てきた案を一度整理し、各種目別の素案を今年度中にはしっかりお示しできるような準備を今整えているところです。それをもって、来年度に向けた中で、各学校も顧問の配置をどうするかだとか、既に合同部活動に入った種目もありますので、そういったところを伝えながら進めていくことになると思っています。

もちろん今部活をやっているところでは、その種目をそのままやれることが理想にありますが、部活動移行によりそのまま継続というつもりはないので、再編をとにかく具体的にしていけることが必要になると考えています。いずれにしろ、そこに向けて今取り組んでいるところは間違いがありませんので、進めていきたいと思っています。

□ 将来の子どもたちの数も含めて三つの学校区で行うなど、その辺りのくくりをこれからどうしていくかという、種目によっても競技人口が違うので、そこを今苦労していて、ある程度見通しが立ちそうな種目と、なかなか立たない種目もあるだろうと思います。

□ 比較的具体的には検討会で話を伺っているので、それに基づいてエリアも種目に応じてどうしていくのかということ、種目によっては単一的な取組もあったときに、各学校の施設の利活用もどうしていくのかということをお互いにあわせて、再編のプランを出しながらアプローチをしていくことになると思っています。この問題は、一つのターゲットもないと進まないところもあって、ランドデザイン、ロードマップを示しているため、それに向けて進めていきたいと思っています。

■ 土日祝に参加する SPO☆CUL IWATA で大会に出ると思いますが、平日の学校の部活と土日祝の SPO☆CUL IWATA で別競技を選んだ場合、それは SPO☆CUL IWATA の方が優先ですか。

□ 学校の部活と併存している状態のため、しっかりと生徒と顧問、クラブ側が確認を取って、本人の選択に従って選べるようにしていけるように注意しなければいけないと思っています。

■ 保護者としてはやはり大会と、恐らく場所について、自分の子がどこに通うのか、そのままがいいのかというのはすごく不安で、情報を探しに行ったり迷ったり、やはりわからないなと思うのかなと思いました。

□ その点はどうしても、場所や大会の組合せ的なところもあったり、種目によっての人数のバラバラ

感もあったり、それから、中体連の参加規定が徐々に緩やかになるものの、種目によってクラブ参加をどこまで認めるかといったところも非常に大きくあります。特に競技志向が強い子どもあるいは保護者の方については、その部分の関心度は非常に高くなっていると思っていますところ。一方、そうでない方々も当然いらっしゃるって、むしろこういう形でクラブができて、子どもが選ぶことを歓迎する声も届いています。この辺りはなかなか難しいところで、方針はお示しをしながら、段階的に切替えていこうというところで、努めていけたらと思っていますところ。

(11) 中央図書館

<質疑・意見>

■ 予定事業に「デュオ・リサイタル in 竜洋図書館」とありますが、シゲルカワイのグランドピアノは竜洋図書館に運ぶのですか。

□ 河合楽器さんが持ち込んで調律をして演奏します。

■ この間も工場の中で三浦さんがピアノを弾いていました。定年退職したばかりくらいの方だと思いますが、そういう方たちがこういう活動をなさっているのはすばらしいですね。

竜洋図書館のどこに運ぶのですか。

□ エントランスの自動ドアを越えて左手が図書館で、図書館の自動ドアが開いた正面のところの棚を動かせるので、そこに広くスペースを確保しています。

(12) 文化財課

<質疑・意見>

■ 磐田の歴史自由研究コンクールは、理科のように金賞や銀賞にしましたか。

□ 1番は教育長賞で、明日教育長に御覧になっていただいて、教育長賞を決めます。あとは文化財課長賞など、応募作品のうちの4点にそういった賞をつける形で考えています。

■ 何かもらえるのですか。

□ 蛍光ペンや図書カードを予定しています。

■ 埋蔵文化財センターの土日の来場者の状況はどうですか。

□ 今年も夏の期間、7月から8月の中央図書館の企画展をやる期間に合わせて、文化財課の施設の周遊スタンプラリーをやっていたので、今年もイベントの期間は日ごとで言えば40人50人と来館していただきましたが、やはりそういったイベントをやっているときであって、9月になると1回開いても5人くらいで、施設状況も考えるとなかなかこれ以上の上乗せは難しいかなというところ。1年中イベントを行うのもとても無理な話ですから、1年開けてみたところというところがあるとは考えています。

■ 土日の開館は継続しようと思っていますか。

□ 今年度の開館日数は340日くらいで、祝日と年末年始以外を全て開けていますが、今は現場や発掘調査にも出ていて、職員が大分疲弊してきていて、なかなか振替の休みを取れないところもあります。このままの形態がいいのか、少し人を増やした形で継続するのか、土日ではなく土曜日か日曜日のどちらかを開館という形がいいのか、というのは今検討していて、なるべく職員の負担感を減らそうとしています。入館者数はほぼ頭打ちという中で、職員の負担感だけ増しているため、どういう形がいいのかというのは来年度の予算を含めた中で検討したいと考えています。

□ 現状を検証して数値をはじいた上で、たった5人のために1日職員をつけるということは本来やるべきではないと考えているので、費用対効果を分析した中で、来年の体制を考えたいと思います。どうしてもやるということであれば、ちゃんとした人件費を要求して、会計年度任用職員を何人か雇用して、その方たちにやっていただき、文化財課の職員は通常業務をしっかりとやってもらうような形を取らなくてはならないと思っています。教育委員として、それはつけるべきではないのではないかという御意見や、逆にやるべきではないかという御意見を頂戴したいです。

○ 私はイベントのときだけの開館でいいかと思っています。

□ 課長が振替で休みだと打合せもできなくなります。やはり本来やるべき業務から事業が増えているならば、それなりのマンパワーはつけないとだめだと思います。

○イベントもそうですし、例えば7月8月だけ、夏休み期間だけ全部開館するなどに限定した方が良くと思います。

6 協議事項

・令和7年度の学校教育及び社会教育に関する一般方針等について（意見聴取）

○リーフレットは、各年度の教育委員会の目標、方針、政策を取りまとめ、教育長、教育委員からのメッセージとともに、一般に広く周知するために作成しているものです。教育に関する基本的な方針は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条に基づいて、教育委員会が定めるものとされているため、毎年度、教育委員会の目標や方針について、委員の皆様から御意見を伺っています。

教育委員会の目標は平成22年度から、3つの方針についても平成28年度から現在の形です。各施策については、方針決定後に関係課で具体的な内容について、予算も含め検討していきます。

今回は、令和7年度の目標と方針について御検討いただき、11月以降の定例教育委員会で再度御協議いただくこととなります。なお、令和6年度については委員の皆様の御意見を受け、方針3の説明の表現を変更しています。また、各方針に係る各施策については、方針1施策1に「探求的な学びの推進」を追加、方針2施策2を「部活動の地域移行（SPO☆CUL IWATAの実施）」に変更しています。また、これまで進めてきた事業には、「静岡ブルーレヴズホストゲーム中学生一斉観戦事業」を加え、現在進めている主な事業には、「探求的な学びの充実」を追加しました。これからの課題は、「学府一体校の推進」と「学校給食施設のあり方の検討」を、「学府一体校の推進・教育関係施設のあり方の検討（校舎、プール、図書館、学校給食施設）」に変更し、掲載順は課ごととしました。次年度に対するキーワードを踏まえて、委員の皆様の御意見をお伺いします。

○ある意味着眼大局になると思いますが、まずは教育委員会の目標はいかがですか。またよりこれから、ふるさとというか、地域愛というか、シビックプライドというか、先ほどの学調でも、「地域や社会をよりよくするために何かをしてみたいと思う」などの項目は小中とも全国平均を上回っているので、大事にしたいと思います。

○私もこの件は10年間変わってきていないので、この流れでいいと思っています。

少し気になっていることは、磐田市教育委員会の計画体系と主要な事業のところに教育委員会の目標があって、1番はたくましい磐田人を育成することだと思います。その中で方針1・2・3がありますが、方針1は生きる力の育成、方針2はそのために地域をうまく使って、方針3で環境も整備していかななくてはいけないという流れだと思います。そこでまず、方針1の「子どもの生きる力の育成」の「子どもの」は必要なのか、教育というのは当然子どもから大人まで一貫してということだと思うので、教育委員会がかかるのは、幼小中に特化しているところはありますが、「生きる力の育成」だけでいいのかなと思います。

次に、施策1の「魅力ある園・学校づくりの推進」と方針3の「学校（園）環境の充実」というのは少し重なっていて、先ほど言った大きな意味での環境整備ということ考えると、方針1施策1は方針3施策1に移して合わせこむ方がいいと思います。ここで言っている方針1施策1は、環境整備よりも、学校や園の内容のことで、小中一貫教育とかコミュニティ・スクール、GIGAスクール構想、ICT、キャリア教育などの話のため、それに合うような施策名に変えた方がいいと思います。

それと、方針1には政策2まであって、そのような流れの中でも合わなかった子も手厚くフォローしていくということで、個々に応じた支援・指導になると思うのですが、その中でも、磐田市には夜間中学が開設され、静岡産業大学では社会人向けの大学講座が開催されています。そのため、この「生きる力の育成」は子どもだけに限らず、社会人、高校に行けなくなった子たちとか、社会人になってもう1回勉強したいという子たちとか、そういうことも含めて、生きる力を育成するという流れの方がいいのかなと感じています。

○確かに方針1と方針3の重なっている部分はありますよね。磐田の教育と連動しているので、そこをどう整理するともっと分かりやすくなるかというのは感じているところですが、なかなかきれいにいかないという結論に昨年度はなってしまったところです。

方針1は子どもと特定しなくてもいいところですね。ここは園と小・中学校に特化した内容でまとめてあるので、恐らく子どもというのをずっとつけてきたのだと思いますが、もちろん生涯学習時

代なので、そこをどう方針として示すかというところは大事なと聞かせていただきました。

○教育委員会の目標は、このままでいいと思います。

磐田市教育支援センターは今年3つ目ができるということで、方針1施策2に個に応じた支援についてうまくまとめてはありますが、もう少しそのようなことや、心の教室も全中学校にあることなど、手厚いケアをしていることもどこかに入れたらどうかと思いました。

○これまでに進めてきた主な事業に入ってくるのでしょうか。

○そのようにもう少し具体を入れるという手もあるかなと思います。毎年どんどん入れ込んでいるので、情報量が増えてしまっている傾向もありますね。

○平成19年とか古いものはどこかで消してもいいかもしれないですね。

○このリーフレットをどういう目的で作っていくかというところだと思います。

○それを聞いていなかったですが、これは何か反応がありますか。

○先ほどリーフレットとは別のビジュアル版のものをお見せしましたが、リーフレットは全て網羅してあるので、磐田の教育はこういう特徴があって、このような教育をこう展開しているということ、市民、保護者、市議会の方たちも含めて見せられるといいなということで、それぞれで作れないかと今動いています。ビジュアル版は下にもう少し具体を入れるイメージですが、リーフレットは計画的な内容、磐田で取り組んでいる事業を落ちなく入れていく内容になるので、それをどう方針として施策としてまとめていくのかというところだと思いますが、園と学校教育と生涯学習でどう入れ込むとつながりができるかという視点になると思います。

○私も方針1施策1と方針3施策1は重なっているもので、もっとスマートになるのかなと思っています。磐田市は教育大綱があつて、他の市町はこういう細かいものが教育大綱になっているところもあるので、何か補うように見せなくてはいけませんよ。

私は「子どもの」という言葉があつてもいいとは思っていて、他にも方針2の中に子どもとか若者という言葉もあつて、確かに生涯教育といえそうですが、あえて教育委員会でするものなのであつてもいいのかなと、そこは特に気になっていなかったです。

○方針3の施策1と2は、園・学校教育に関することになっていて、施策3～5は社会教育、生涯教育というところで、ここが社会教育と学校が一緒に入っているという並びですよ。

○私は「子どもの」というのは入れなくてもいいかなと思っています。

方針1には「しなやかでたくましい磐田人」を育成とあつて、目標は「ふるさとを愛し未来をひらく心豊かな磐田市民」となっていて、「磐田市民」の部分の部分が気になっていて、子どもというキーワードを入れるかどうかで言うと、この部分は子どもかなと思いました。

○恐らく「磐田市民」は社会教育を意識して、子どもだけではなく幅広くするように入れていますね。

それと確かに、しなやかでたくましい磐田人というのは方針1だけです。

○目標ではなくて、方針1だけです。しなやかでたくましい磐田人も言いたいというか、サブ目標のようなものだろうなと思いました。

○たくましい磐田人というのは、新時代の新たな学校づくりとか小中一貫教育からの発展的なところから出てきた言葉ですよ。

○学び直しとか、立ち上がれる力とか。

○この言葉で表しているような気がしますね。

○リーフレットと磐田の教育が連動するよう作つてあるので、磐田の教育を再構成するということ大がかりですよ。

○令和6年度版のリーフレットは発行部数を増やしましたよね。

○はい。いろいろところで配っています。

○教員、運営協議会など、誰に配布しましたか。

○市P連でも配布しました。教育大綱や市の教育目標を御理解いただきたいので、機会があるたびにいろいろところで配布して、お話をしています。

○先日教育委員について話をするよう依頼されたので、このリーフレットを使って話しました。

○今日いただいたいろいろな御意見を踏まえてたたき台をお示しして、また御意見をいただく機会をつくりたいと思います。また、今後お気づきの点については事務局まで連絡いただければ、それも含

めた形で再検討させていただきますので、よろしく申し上げます。

○いただいた御意見を参考にしながら、事務局で再構成して、重なっている部分をうまく整理できればいいかなと思います。大枠は変えずにいきたいと思いますがよろしいですか。また事務局の方から示されるとと思いますので、よろしく申し上げます。

7 その他

・「市町村教育委員会研究協議会」参加報告

○9月13日に大阪市で開催された研究協議会に参加しました。分科会のテーマは「教育委員会の機能強化・活性化について」で、人口が大体磐田市と同じ10万人から15万人くらいの、大阪府門真市、兵庫県伊丹市、奈良県生駒市、山口県周南市と同じグループでした。総合教育会議を月1回開催する市や、いじめ重大事案について、教育委員を集めて対応訓練でシミュレーションをする市もありました。あとは、予算をいかに確保するかとか、議会でどう市民を巻き込むかということも教育委員が話し合う市もあって、磐田市ではある程度決まってきたことを聞いて質問をするくらいなので、それほど具体的なことまで知らないことがたくさんでした。復興計画や予算書を見ている市もありました。

教育委員が何をすべきかという話で、地域やPTAの意見を聞いて、個人の意見ではなく教育委員の意見としてどう施策に上げていくかということや、先生の魅力もしっかりアピールするために教職員とざっくばらんな雑談をしているところもありました。テーマを持ち寄って自主的な勉強会をしたり、磐田市では校長先生くらいとしかお話ししないので教職員の意見を聞く機会がないですが、若い先生とかとお話をして先生の困り事や校長先生には言いにくいようなことを吸い上げたりするというお話もありました。あとは、ベッドタウンの市が多かったので、ヤマハ発動機のような企業があるところはうらやましいという話をしてもらいました。

今までは関東の方とお話することが多かったので、自治会やPTAが崩壊している中で運営協議会をつくらうとしていて、磐田市のことを質問されることが多かったです。今回は関西寄りだったので、自治会はしっかりしていてそれを使おうという、やはり地域性が全く違うと思いました。

ある市は、とにかく幼児教育を手放してはいけないという話をしていました。大阪の周辺で都会なので私立園が多い地域で、磐田市では公立園の方が多のですが、やはりそこを手放すと小学校からの教育になかなかつながらないというところで、今磐田市では会議に出てきてくれているので、そういうことは大事だという話をしました。2050年までに生き抜く力を育てるといった長いスパンの目標があるなど、いろいろなことをよく勉強なさっている方たちでした。

○私も仙台での研究協議会に参加したときに、その地方の地域性がすごくあると感じました。仙台でのお話では、校長室でカフェを開いて、先生や子どもたちも来ていいという活動があって、教育委員も学校に入ってお手伝いをするところがありました。

○予算から関わることや議員とお話するというところもあって、時間をかけていて、もう少し私たちも時間をかけなくてはいけないのかなと思いました。

8 次回の開催予定

・定例教育委員会

日時：令和6年11月14日（木） 午後5時30分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

9 閉会